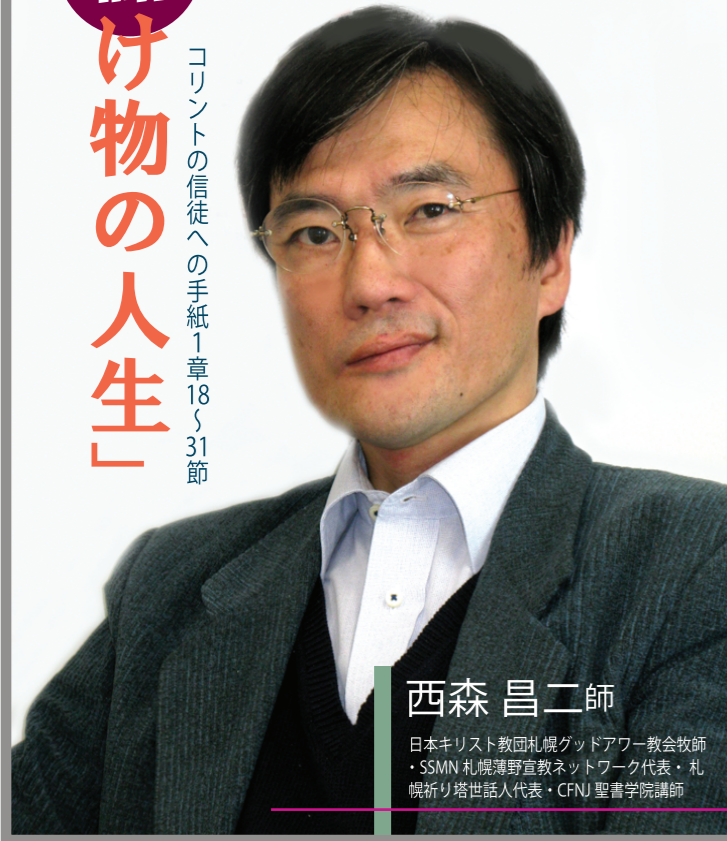


「儲け物の人生」

コリントの信徒への手紙1章18〜31節

CFNJ聖書学院
専任講師
メッセージ



西森 昌二師

日本キリスト教団札幌グッドアワー教会牧師
・SSMN札幌薄野宣教ネットワーク代表・札幌
幌祈り塔世話人代表・CFNJ聖書学院講師

儲

「儲け物の人生」

■私は救われる前、大学浪人二年生でありながら、パチンコのプロのような生活をしていました。パチンコ屋の入り口に開店前にならんで、シャッターが上がったら良い台を目指して走ることもありました。(近い将来に、教会のドアが開く前に、人々が良い席を目指して行列をつくるようになることを確信します。) そんな私がはじめて福音を聞いたときのことで。福音を語る彼(現在は牧師となり、共に薄野宣教の働きをしています。)に猛烈に反抗しました。そのとき、誰かの指が後ろから私の右の肩に強く触れたのです。「後ろには誰もいないのに。この感触は何だ！」驚く私に彼はギデオン聖書を渡し言いました。「神様を心から求めるなら、必ず出会うことができます。求めてもらなさい。」1981年11月20日のことです。

■その日から、朝に夕に、聖書を真剣に読み「神様がおられるなら、私に現れて下さい。」と必死に求めて祈りました。今考えると、あの指は神様からの一方的な恵みによる選び

の指であり、そのときから聖霊様が私の心に働き祈りを導かれていたのだとはっきりと分かります。5日後の11月25日、祈っている私に体験したこともない平安が訪れました。イエス様の十字架が私の罪のためであると知らされました。私は神様に愛されている、赦されている、私の人生に計画があるのだと悟りました。涙が溢れ、喜びが溢れました。見るもの聞くものすべてが新しく新鮮に感じられました。そのときに私は、最高のプレゼントをいただいたのです。それは、救われた人生です。人生そのものです。私は、確信をもって語ることが出来ます。福音に出会っていなかったなら、ある日、新聞の三面記事にこんな報道がされていたでしょう。「西森昌二・無職・ギャンブルのためのお金ほしさにコンビニ強盗をする!」「西森昌二・会社員・人間関係のもつれから上司を刺す!」等。今ごろ警察のやっかいになり、多くの方の人生に破滅をもたらしていたに違いないと。私の中にあつた罪、自己中心性が、いかに恐ろしいものであるかを、神様から知らされています。愛する皆さん! 十字架の福音によって救われた私たちの人生は儲け物の人生です! 神様からのプレゼントです! 信者と書いて一つの漢字にすると、「儲」となります。私たちクリスチャンが神様からいただいた救いの人生とは、「儲け物の人生」です。

■1コリント書1章26-29節「兄弟たち、あなたがたの召しのことを考えてもらなさい。この世の知者は多くはなく、権力者も多くはなく、身分の高い者も多くはありません。しかし神は、知恵ある者はずかしめるために、この世の愚かな者を選び、強い者はずかしめるために、この世の弱い者を選ばれたのです。また、この世の取るに足りない者や見下されている者を、神は選ばれました。すなわち、有るものをない者のようにするため、無に等しいものを選ばれたのです。これは、神の御前でだれをも誇らせないためです。」この御言葉は正に私のことです。そして、主に選ばれて救われたあなたのことです。救われた私たちの人生は、神様からのプレゼントです!

エペソ書2章10節「なぜなら、わたしたちは神に造られたものであり、しかも、神が前もって準備してくださった良い業のために、キリスト・イエスにおいて造られたからです。わたしたちは、その良い業を行って歩むのです。」愛する皆さん、「儲け物の人生」を無駄にしてはいけません。本当は滅びで終わっていたはずの人生が、救いの人生とされました。人生を神様と人のために使わないと損です。使えば使うほど、もっと豊かに私たちは受け、そしてまた与えることが出来るのです。

儲

神の愚かさを生きる

■ある日、息子が一緒に寝ていた2階の部屋の窓から突然落ちました。慌てて階段を降り息子のもとへと、祈りながら走りました。しかし、もう息はありませんでした。私は、地面を力の限り叩きながら、神様に向かって何度も叫びました。「神様なぜ、なぜ、息子が。私が代わりに死ねばよかったのに!」叫んでいるうちに目が覚めました。息子はお腹を出して私の横で寝ていました。夢だったのです。本当に安心して神様に感謝しました。そのとき強く思わせられました。私が息子へ向けた愛は、神様が与えて下さったものであり、神様の私たちへの愛は遥かに大きく変わることがないものだ。神様も親ばか(このような表現を使うことをお許し下さい。)です。あなたを救うために独り子イエス様を与えられたのです。1コリント書1章には4つの愚かさが出て来ます。それは、「十字架の言葉の愚かさ」(18節)・「宣教の愚かさ」(21節)・「神の愚かさ」(25節)・「選びの愚かさ」(26-29節)です。神様は、私たちを愛するために愚かになることが出来る、大きな情熱的な愛をお持ちなのです。私たちは、このすばらしい神様の子として、「儲け物の人生」を用いて、人を愛するために愚かになれる者となりましょう。人々は賢く、損をしないようにと生きています。霊的戦いの勝利の一つ鍵は、この世にある霊的な流れと違う生き方を表すことです。メンツを捨てて、福音のために損を出来る者となりましょう。愛のために愚かに、低くなれる者となりましょう。愛のために「神の愚かさ」に倣って生きることを、誇りとしたしたいと思います。

儲

宝捜しの人生

■この世にある一番の宝とは、それは、人間の魂です。日本人は、ルカによる福音書15章のたとえに出て来る失われた銀貨のようです。そこでイエス様が語っている3つのたとえの中で、「羊は羊飼いに向かって泣くことが出来ず。」「放蕩息子は、父を知っているのに父のもとへ帰ることが出来ず。」「しかし、銀貨は自分では何も出来ません。」ともし火をつけて捜す者が必要です。魂の価値を知って、愛のともし火を持って、宝捜しをする者、すなわち伝道する者が必要なのです。あなたの愛の行いと十字架の福音を語るを通して、神様はあなたの愛する宝なる方を救おうとされています。一つの魂が悔い改めて福音を信じて救われることこそ、聖書が語る最高の喜びです。

■1コリント書1章18節「十字架の言葉は、滅んでいく者にとっては愚かなものですが、わたしたち救われる者には神の力です。」1章21節「世は自分の知恵で神を知ることができませんでした。それは神の知恵にかなっています。そこで神は、宣教という愚かな手段によって信じる者を救おうと、お考えになったのです。」救われてから福音を伝えることに燃やされた私は、多くの方と共に様々な伝道にチャレンジして来ました。それは、メンツを捨てて、へりくだらないと出来ないことばかりでした。時間があると学友に伝道していた大学時代の私のあだ名は、「ザビエル西森、ウォーキングバイブル」でした。神様の導きに応答して、福音を伝えるために、多くのことにチャレンジさせていただきました。小・中学校への早朝の伝道、多くの場所での路傍伝道・ちん問屋伝道・自転車に看板を付けての伝道・書店の宗教書コーナーで危険な本を読んでいる人への伝道・喫茶店伝道一他。そして、多くの方が救われる喜びを神様が与えて下さいました。その後、牧師となった私は、1996年に開拓教会を正式にスタートしました。そのときから神様が命じられた宝捜しの場所は、私が最も避けたかったところでした。それは、関東以北最大の歓楽街「薄野(すすきの)」です。神様は薄野で働く方々に大きな偏見があった私の心を、祈りを通して変えて下さいました。薄野の魂のために祈っているときに、何度も、神様が涙とうめきを与えて下さったのです。どれほど大きな宝がそこにあるのかを教えられました。そして神様は、5名の共に働く牧師たちを戦友として与えて下さいました。2004年には「薄野宣教ネットワーク」をスタートして現在まで毎週2回の伝道が継続されています。

■これまで、すべての薄野の店舗(約5千店)を何度も回り、約4千冊の聖書・約1万4千冊のパワーフォーリングを手渡し、福音の種を蒔きました。毎週、霊的な要塞が崩されるための祈りを続けています。個人的に関わり、祝福を祈らせていただいた方々も300名を越え、受洗した方も12名起されました。イエス様の時代の徴税人や遊女が救われ豊かに用いられたように、薄野から救われた宝なる方々が、日本のリバイバルの器となることを確信して伝道を継続しています。愛する皆さん、神様があなたに与えておられるその場所で、まだ神様を知らない多くの隣人を愛するために「神の愚かさを生きる」決意を新たにしましょう。私たちに与えられた「儲け物の人生」を大胆に使い、福音を伝える「宝捜しの人生」を、喜びを持って生きていきましょう。■